

なきごえ



1982

5

大阪市
天王寺動物園協会

那須 義次



「野鳥の会」と私とのつきあいは新しく、大学に入ってから

のことである。大学のクラブに「野鳥の会」というのがあることを知り、それまで本やテレビでしか知り得なかった自然と触れあえるかなと思い入部したのが始まりであった。

初めて野鳥を見に行った時の印象は強烈だった。生れて初めて見たオオルリの雄がルリ色に光り輝いているように見えたこと、カイツブリのけたたましい声、そして初めて見たモズのハヤニエが何とアオジというモズより少し小さい鳥であったことの驚きなど数えあげればキリがないぐらい、何もかも生れて初めての体験だった。

これ以来、野鳥を見に、声を聞くため野山や海辺へ行く生活が続いている。また一方では、「野鳥の会」の多くの人に会える機会も「探鳥会」が与えてくれた。

このように私にとって「野鳥の会」とは、趣味の会を乗り越えて、未知なる自然とのつきあい方を教えてくれる会であると同時に人間とのつきあい方も教えてくれる会である。

この頃、「野鳥の会」について考えることが2つある。

一つは、良く言われることではあるが、野鳥を見

る時のモラルの低下、特に写真を撮る人のモラルの悪さが目立つことである。鳥を見るためには野鳥の生活をおびやかしたり、作物が植わっている田畑を踏み荒したりすることは平気、他人の迷惑など全く構いなし、自分さえ良かったらいいという、人間失格の人たちがいる。悲しい限りである。

私は野鳥を愛することと人間を愛することは同じことだと思う。野鳥を見る人たちよ、もっと人間を愛して欲しいと切実に言いたい。

二つめは、最近、野鳥を見ることがかなりブームになっていることだ。週刊誌や雑誌などにバードウォッチングやバーディングという言葉でアウトドアスポーツの一種として紹介されている。

確かに野鳥を見る人も急増している。「大阪支部」も現在、800余名の会員を有するまでになり、全国では3万名近くもいるそうだ。「大阪支部」の探鳥会には80名近く、バードウォーク時には200名近く参加するという状況がこの頃続いている。4～5年前の2～3倍もの人数である。

しかし、私はこれを手ばなしでは喜ぶ気になれないのだ。今の野鳥への関心が、ファッションブームのように、マスコミに作られた、長続きはしないブームではないかと考えてしまうからである。

私は野鳥を見るということは自然と他人に心から接することであると思う。人間を忘れた「探鳥会」などは存在しないのだ。

今のバードブームを一過性のブームにしないためにも私たちは自然と人間とをより大切に考えていかなければならないだろう。

(日本野鳥の会大阪支部 事務局長)

なきごえ5月号もくじ

動物と私	2
“オグロワラビーの赤ちゃん、お目見え”	3
動物園グラフ・動物園日記	4-5
園内の野鳥観察記	6-7
動物たちの衣替え	8-9
キーパーズ・アイ	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“ウスカクビタイヨウチョウ”

東南アジアに生息するタイヨウチョウの一種です。タイヨウチョウの仲間はスズメ目の鳥でアジア、アフリカの熱帯地方に約100種がいます。全長約15cmの小さな鳥で、花の蜜を吸うためくちばしは非常に細長く下に曲っています。

(撮影：榊原 安昭)



“オグロワラビーの赤ちゃん、お目見え”

今年初めより袋の中にいるのが確認されていたオグロワラビーの赤ちゃんは、3月末から袋から顔を出すようになり、4月末には袋から外にも出てくるようになりました。この母親は昭和53年に当園で生まれたもので、これが2度目のおめでたです。

(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

“ヒツジ達の衣替え”

夏が近づき、純毛 100%を着たヒツジ達は暑さがひとときわこたえます。そこで毎年6月1日、ヒツジ達の毛皮のコートを刈り取ってあげます。

(撮影：長瀬 健二郎)



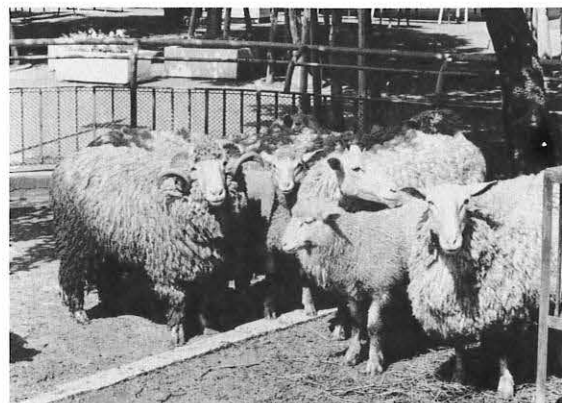
① 嫌がるヒツジをタックル!! ヒトもヒツジも大変です。



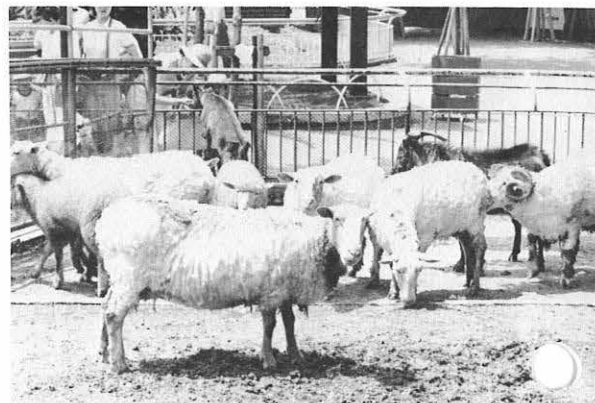
④ 大きな鋏で刈り取ります。



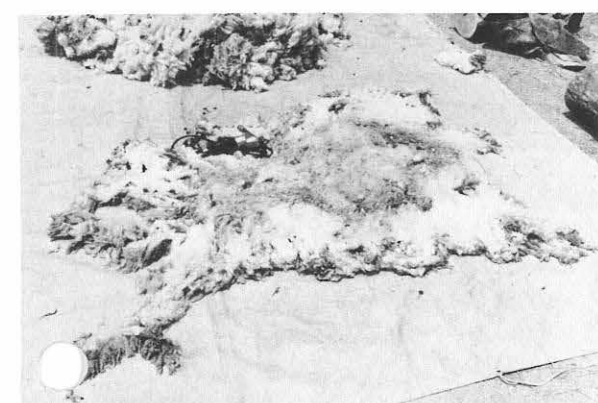
⑤ ヒツジ用電動バリカンも出場です。



② 使用前



③ 使用后



⑥ 虎は死して皮を残し、ヒツジは生きても皮を残す。見事な1頭分の1枚皮(?)



⑦ 6頭分の毛の山。総計28kgで、背広7着分になります。

3・4月の動物園日記

- 3 / 21. 老雌ライオンのユキが、老衰のためか食欲がなくなってきましたので注意して見守っています。
- 3 / 22. 人工哺育中のアカカンガルーの子が順調に育っており、3.4kgにもなりました。
- 3 / 23. ヤブシチメンチョウのケージの土を入れ替えました。
- 3 / 24. イワトビペンギンの雌が腎臓結石で死亡しました。
- 3 / 25. 定例飼育研究会が行なわれました。

- セキショクヤケイが1羽ふ化しました。
- 3 / 27. ライオンの雌・ユキが肺膿瘍で死亡しました。ライオンでは、とても長命で19年5ヵ月生きました。
- 3 / 28. 2羽目のエミューがふ化しました。ふ化日数は56日でした。ブタオザルの雌が左手指を負傷したので、手術を行ない入院させました。
- 3 / 29. ホオジロテナガザルの赤ちゃんが産まれました。
- 3 / 30. ホンドキツネの子が2頭生まれました。
- 3 / 31. カバのフトシ、ナツコそしてその子供の3

- 頭を、本日より夜間も屋外運動場に放飼することになりました。
- 4 / 1. 抱卵中であつたキングペンギンの卵が惜しくもわれてしまいました。
- 4 / 2. 片足のオオタカを1羽保護しました。
- 4 / 3. ペンギン全羽にビタミンB1の補給を行ないました。
- 4 / 5. ヘラサギが左翼を負傷、出血が激しかったので、捕獲し止血治療を行ないました。
- 4 / 6. コブハクチョウが産卵をはじめました。
- 4 / 7. ツル舎のタンチョウの部屋に巣材を搬入しました。

- 4 / 9. コブハクチョウが4卵産んでいるのが確認され、抱卵をはじめました。
- 4 / 11. 猛禽類の性別鑑定のため採血を行ないました。
- ハイロコクジャクが1羽ふ化しました。
- 4 / 13. 毎年恒例の「象の目方を計る会」が象舎工事のため、中止されることになりました。ゾウ舎の工事が始まりました。
- 4 / 17. 多摩動物公園の中川志郎飼育課長が来園されました。
- 4 / 18. 「思い出のハクセイ展」が始まりました。

園内の野鳥観察記

§ はじめに

1980年11月から園内の野鳥の観察を記録するようになり、1981年の5月からは記録票を作製し、本格的に観察を開始しました。方法は観察した鳥を各自記録票に記入し、それを集計する方法をとりました。したがって個体数を把握することはできませんが、ある程度の目安とはなるでしょう。わずか1年6ヶ月の記録ですが、簡単にとりまとめました。

記録に際し、キジバト、ヒヨドリ、スズメ、ムクドリ等の4種は一年中園内に生息しており、かつ個体数も多いので、記録票には記入しませんでした。

§ 結果

園内で観察された野鳥は表Iのとおりで、36種で内1亜種(ハチジョウツグミ)を含んでいます。1ヶ月あたりの観察回数の頻度により△○○の3つにわけました。これにより季節的变化がわかりますので次にそれらについて



ヒヨドリ

園内で観察された野鳥(1980年11月15日～1982年4月25日)

	1980		1981				1982											
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
ゴキ	△	△		△	△		△	○	○	△	○	△	△	○	△	△	△	△
イサ	○	○	○	○	○	○												
カガ																		
モビ																		
メコ																		△
シト																		△
ツバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キバ	△	△																△
レイ	○	○	○															△
イイ																		△
イリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ズキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シキ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
シハ																		
ツラ																		
ミ																		
ウイ	○	△	△															
グス																		
メシ																		
キタ																		
オキ																		
エオ																		
コル	△																	
サビ																		
ヤマ																		
シウ	○	△	△	△	△	△												
メウ																		
カシ																		
アオ																		
カワ																		
イシ																		
スル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ムク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシ																		
トガ																		
ラス																		

観察回数 (△: 1~5回 ○: 6~10回 ●: 11回以上)

て述べたいと思います。

○1年中観察されるもの

園内で1年中観察することができ、かつ繁殖が確認されているのはキジバト、ヒヨドリ、スズメ、モズの4種ですが、ムクドリ、シジュウカラも繁殖期に観察されていますので、繁殖している可能性があると思われます。

○夏に観察された野鳥

夏に観察された野鳥の代表はツバメです。初認は1981年、1982年共に4月18日でした。終認は1981年11月4日でした。動物園付近で巣はあまり発見されていないことから、園内でツバメを見かけることは意外と少ないようです。ツバメは夏鳥の代表で、夏期日本で繁殖し、冬は東南アジアで越冬します。

○冬に観察された野鳥

冬に最も多く観察される野鳥はツグミです。1981年の初認は11月3日で、4月25日現在まだ園内で時々見かけます。その他ジョウビタキ、シロハラ、イカル、アオジなどが冬に動物園を訪れます。ハクセキレイ、キセキレイ、セグロセキレイの3種のセキレイ類も主に冬に見られます。特にハクセキレイの渡来数は多く、9月から翌年の3月まで観察されますが3月に入ると急激に観察回数は減ります。

1980年の12月から1981年の5月まで、何回かシメが観察されていますが、今年の冬は1回も観察され

ませんでした。比較的今年の冬は暖かったためかもしれません。

ジョウビタキ、ツグミ、シロハラはいわゆる冬鳥といわれているもので、冬期日本に飛来し、夏期北方へ渡り繁殖しています。

イカル、シメ、アオジなどの鳥は、漂鳥といわれるもので、動物園では冬のみしか、出現しませんが、夏期に本州以北の低山帯や北海道で繁殖しています。

○カルガモの飛来

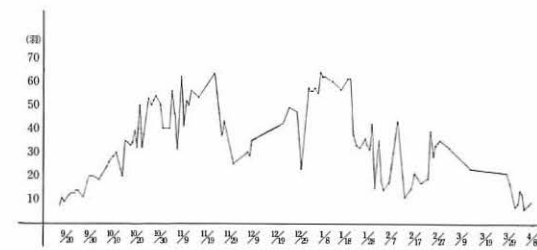
冬に観察される鳥で忘れてはならないのは、南園の日本庭園の池に飛来するカルガモです。カルガモが飛来するようになったのは5~6年前のことで、その頃日本庭園で自然繁殖したヒナを断翼せずに、自由に飛べるようにしておいたところ、そのカルガモたちが、他の野生のカルガモをつれてもどってくるようになり、だんだん飛来数が増加するようにな



カルガモ

りました。昨年9月から、今年の4月までの飛来数の変化は表IIのグラフのとおりです。11月22日に63羽1月6日に64羽と2回のピークが認められます。11月下旬から12月中旬まで飛来数が減少していますが、これは11月25日から数日間、樹木を剪定するために人が池内の島に入ったため、カモたちが警戒してしばらく飛来しなかったものと思われます。

表II カルガモの飛来数(1981年9月17日~4月6日)



カモ類は昼間池で休息し、夜間採餌に出かけます。動物園でも早朝、群となって飛来し、夕方東の方へ

飛び去るカルガモを見ることができます。都心の小さな池ですが、これからも安心してカモたちが休息できるように見守ってゆきたいと思います。

○春と秋に観察された野鳥

春と秋の野鳥が渡りをする時期には、渡りの途中で休息する鳥を観察することができます。美しいさえずりで有名なオオルリが、毎年春と秋に観察されています。キビタキも春に観察されています。また秋にはエゾビタキ、サメビタキ、コサメビタキなどのヒタキ類が観察されています。



オオルリ

これらの鳥たちは本州中部以北の低山帯や北海道などで繁殖し、冬は東南アジアで越冬します。長い渡りの行き帰りに動物園の緑はよい休息の場所となっています。

○その他の観察された鳥



エゾビタキ

観察された回数は少ないですが、カモメの仲間のユリカモメ、ウミネコ、コアジサシなどが数回観察されています。本来海鳥であるカモメ類ですが、川沿にかなり上流まで観察されていますので、時おり動物園の上空も通過するものと思われます。

またツグミの亜種で、胸腹部が赤っぽいハチジョウツグミが、1981年の1月から4月まで3回観察されています。

§ まとめ

わずか1年6ヶ月の記録ですが、意外と多くの野鳥が動物園を訪れることがわかりました。このような観察は長期間継続することが重要ですので、これからも続けてゆき長期間の変化を記録してゆきたいと思っています。(飼育課・獣医師：榊原 安昭)

飼育レポート

動物たちの衣替え

§はじめに

新緑がまばゆい程光り輝く5月。頬をかすめる風にも、初夏のかがりが感じられるようになると、衣替えの時期がやってきます。動物園でもこの時期、動物たちの衣替えともいべき換毛をしている動物の姿が見られます。今回は動物の衣替えについて、飼育日誌の観察記録の結果もまじえて紹介しましょう。

§換毛とは

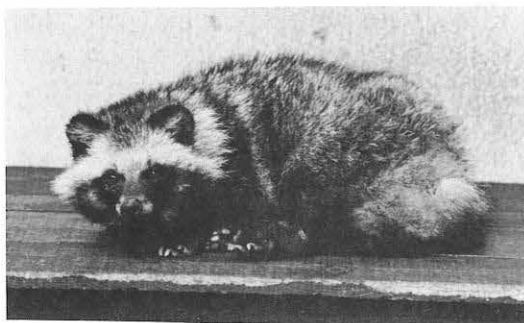
1年を通じて、動物の体の変化が、一番よくわかるのは、動物が換毛期に入っている時期です。春から初夏にかけて、冬毛が脱けてあまり見ばえがよくありませんが、脱けた冬毛の下には、夏毛が生え、やがて冬毛が全部脱け落ち、完全に夏毛に換ります。これが動物の換毛であり、動物の衣替えなのです。しかし、換毛期は冬毛から夏毛へと脱け換る時期だけではなく、夏毛から、冬毛へと換わる時期もあります。ただ夏毛から冬毛へと換わる時期は、脱毛量も少ないため、冬毛から夏毛の換毛期のように、はっきりと観察できません。又、動物によっては、換毛の時期がはっきりしないものや、年間を通じて換毛の見られないものもあります。換毛のタイプを大別すると表1のように分けられます。

§衣替えも楽じゃない!

衣替えといっても、動物たちの場合、人が冬服から夏服に着替えるように簡単には行きません。動物たちにとって衣替えは、命を落とす危険さえあるのです。健康状態が悪いと、換毛がスムーズにできず、夏場に入って肺充血や熱射病で、死亡する事さえあります。

換毛期がなく一生毛がのび続ける羊などは、人の

表1	換毛タイプ	動物
A	年に1回換毛する	バイソン・ラクダ
B	春と秋の2回換毛する	シカ・キツネ
C	体毛が一生のびつづけ換毛しない	ラマ・ヒツジ
D	換毛がはっきりせず、脱毛と新生をくり返す	ゴリラ・チンパンジー



① 換毛中のタヌキ

手によってハサミやバリカンで、毛をきれいに刈ってやります。当園では毎年6月1日に、羊の毛刈を行って行っています。これは園の恒例の行事で、季節の風物誌にもなっているのです。換毛期に入った多くの動物は、とても神経質になり、仲間同志の争いも多くなり、係員に対しても攻撃的になってきます。体がかゆいために、カベや木にゴシゴシと体をこすりつけます。この状態を見た入園者の中には、換毛に対する知識がないためか、みすぼらしく毛の脱けかかった動物を見て「かわいそうに、このキツネ皮膚病やねえ……」と、いらぬ心配をしてくださるのです。このように、

動物たちにとって重要な換毛ですが、飼育係にとっても、動物たちの換毛は重要な事です。



② ラマ (一生毛が伸びつづけるラマ)

§換毛は動物の健康のバロメーター!

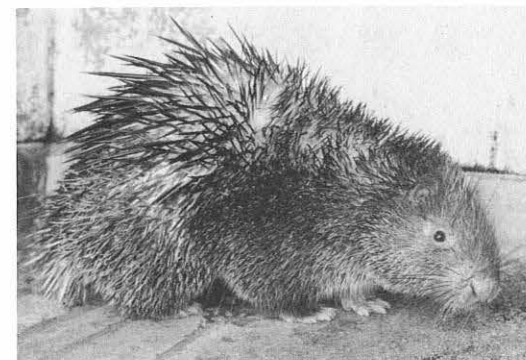
動物たちの健康状態を知るうえで、食欲・便の状態・動作など、毎日の変化を記録する事も大切な事

なのですが、さらに、個々の動物の換毛状況を観察する事によって、一年を通じての、動物の健康状態が判断できるからです。表2は、現在私が担当している小獣舎の動物たちの、換毛を記録した結果をまとめたものです。1975年から1981年までの、6年間の換毛期の記録において、換毛期がはっきりしているものと、長期間にわたって、少しづつ脱毛するものとの、2つのタイプが確認できました。ホンドギツネとキタキツネの、換毛期の比較をしてみると、毎年、ホンドギツネの方が、キタキツネよりも早く換毛が始まります。両者ともキツネ *Vulpes vulpes* の亜種であり、ホンドギツネ *Vulpes vulpes japonicus* は、本州・四国・九州に生息しており、キタキツネ *Vulpes vulpes schrencki* は、北海道



③ 羊の毛刈り (毎年恒例の行事になっている羊の毛刈り) 太くて長い針毛が

に生息しています。この生息地の差が、換毛期の差に現れた事は、興味深い点だと思います。全身が針毛でおおわれているヤマアラシ科の仲間は、驚かすと針毛を逆立てて、身を守るのですが、その時に、パッと開いた全身の針毛のうち、



④ パラワンヤマアラシ

抜け落ちるのです。この抜けた針毛も、やがて再生します。ここで問題なのは、外因的要素で抜け落ちた、針毛も換毛の記録に含めるかという点でした。しかし、6年間の観察の結果から、ヤマアラシにおいても、全身をおおっている細くて短い針毛の脱毛する量が多い時期があるという事が、確認できました。

§おわりに

季節に変化があるように、動物たちの体にも様々な変化がみられます。動物園で、ただ動物を見て廻るだけではなく、動物たちの習性や、体の変化を注意深く観察すれば、より一層動物たちに興味がわくようになるのではないのでしょうか。

(飼育課：農本 武志)

表2

動物名	換毛期がはっきり観察できた動物												動物名	換毛期がはっきりせず長期間にわたり脱毛する動物															
	換毛期	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11	12	脱毛が多い時期	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イヌ科															ネコ科														
ホンドギツネ															オセロット														
キタキツネ															ベンガルヤマネコ														
タヌキ															ゴールデンキャット														
ジャコウネコ科															ジャングルキャット														
マレージャコウネコ															アライグマ科														
ハクビシン															アライグマ														
カニクイマングース															ハナグマ														
イタチ科															ジャコウネコ科														
アナグマ															ピントロング														
コツメカワウソ															ヤマアラシ科														
															インドタテガミヤマアラシ														
															パラワンヤマアラシ														
															バカ科														
															バカ														
															アグーチ														

“暴君亭主”

サルアパートの一室に、マントヒヒ夫婦が住んでいます。マントヒヒのオスはたいへん暴君で、エサの時間などは自分が一番おいしいものを先に食べ、メスには絶対に食べさせません。もし、横からでも取ったりしたらすごい剣幕でしかりつけます。ですからエサの時間には、メスは部屋のすみっこでオスが食べ終わるのを、横目で見ながらじっと待っています。又、マントヒヒには“ほお袋”といって口の中にエサを貯めておく袋を持っています。オスは時々メスを押さえつけて口を開けさせそのほお袋の中のエサを出させて、おいしそうに食べたりもします。これもオスの権威を示す行動なのでしょう。そんなオスなのでメスは何かする時でも、オスの顔色を伺ってビリビリしています。そんなオスでも、冬の寒い夜はエサを取られたことなどすっかりわすれたか

のように、しっかり抱き合って、お互いが寒くないように寝ています。いくら暴君の「ヒヒおやじ」でもやさしい所があるものなのです。

(飼育課：野口 秀 高)



“寒がり屋のタカオ”



今年も寒い冬が去り、暖かい春がやって来ました。動物達にとっても快適な季節になりました。

キリンも元気に走り廻っています。今年の冬キリ

ンのオスのタカオは、寒さのため元気がなく、心配しました。天気の良い日は、運動場に出してやろうと思うのですが、なかなか出て行こうとしないで、入口からちょこっと顔を出し「わあ、寒いなあ」と云うようにくびを引っこめてしまい部屋の奥の方へ入ってしまいます。運動場に出ても、日当りのよい壁ぎわにじっと立っています。少しでも風のある日は風の当らない場所から絶対にはなれようとはしません。そして、早く部屋に入りたがります。おじいさんになったタカオにとって、寒い冬はとてこたえる様です。おじいさんキリンですが、これからいつまでも元気で長生きしてもらいたいと思っています。

(飼育課：野口 秀 高)
(イラスト：松山 浩 美)

すてき満喫
近鉄クレジットカート

- 全国の近鉄流通グループ・都ホテルチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。



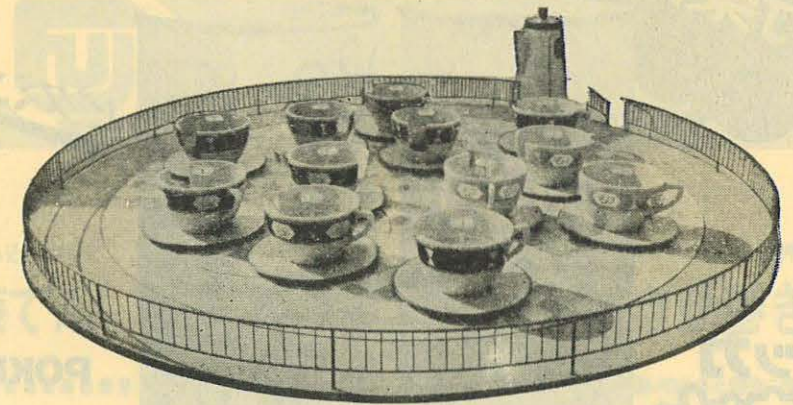
近鉄百貨店

お申込み・お問合せは 各店クレジットセンター
アベノ店 06(624)1111・上本町店 06(779)1231
東大阪店 06(783)1111・奈良店 0742(33)1111

近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・枚方・和歌山・東京(吉祥寺)・四日市・松阪・伊勢・岐阜・徳山・別府

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娛樂株式会社

本社 工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938番

動植物の生態をわかりやすく解いた楽しい幼児図鑑

こどものずかん

この図鑑は正確な絵と生態写真を使って幼児の観察力を養い育て、動植物への理解を深めるようにつくられています。カラーページには身近に見られる動植物を取り上げ、2色ページには観察や飼育・栽培をするときの心構えと要領がのっています。最寄の有名書店、百貨店でお求めください。



全 10 巻

- B5判・上製本・56頁
- 各巻定価650円
- ① みちかな どうぶつ
- ② のやまの むし
- ③ にわや かだんの はな
- ④ うみの いきもの
- ⑤ やさいと くだもの
- ⑥ どうぶつえん
- ⑦ のやまの くさき
- ⑧ みずへの いきもの
- ⑨ のやまの とり
- ⑩ きせつと しぜん

ひかりのくに株式会社

〒543 大阪市天王寺区上本町3-2
☎06-768-1151代表

◎ 動物のことなら あらゆることに
お役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写生会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

110 自然から学ぶおもいやり

株式会社 アニマ

(いきもの110ばん)

☎ 06-498-5656

どうぶつの しゅうは いろいろ
〒661 尼崎市額田町2番3号

ポッカ コーポレーション

ご行楽に...



ビタミンC入り

ポッカ つぶちゃん オレンジ

POKKA P

スポーツアルカリイオン飲料
C-500

NET 250g
標準小売価格 ¥100

NET 250g
標準小売価格 ¥120

誰が押しても



ただフィルムを差し込むだけです。

自動装てん



ピント合わせはカメラまかせです。

自動焦点



次々とシャッターを押すだけです。

自動巻き上げ

撮り終ると同時に巻き戻されます。

自動巻き戻し

フジカオート7デート
標準価格49,800円
(本体47,800円/ケース2,000円)
標準価格はメーカーが希望する標準的な小売価格です

大阪市天王寺動物園協会発行
「なきごえ」発刊200号特集記念

協 賛

獣医科 (イロハ順)

岩崎橋犬猫診療所

TEL (06) 551-1323
大阪市大正区三軒家西1-7-18
辻 栄重

奥村獣医科

TEL (06) 211-8941
大阪市南区島ノ内2-8-34
奥村 弘

高岡獣医科

TEL (06) 471-1672
大阪市西淀川区野里2-2-5
高岡 秀和

高瀬獣医科

TEL (06) 971-7927
大阪市東成区大今里4-27-25
高瀬 一行

谷町獣医科

TEL (06) 941-7693
大阪市東区谷町4-20
池尾 信一郎

鶴野獣医科病院

TEL (0722) 33-0372
堺市一条通18-8
鶴野 整傳

浦東獣医科

TEL (06) 631-3331
大阪市浪速区恵美須西3-6-11
浦東 信夫

福留獣医科

TEL (06) 322-6290
大阪市東淀川区下新庄1-11-7
福留 慶彦

藤井寺動物病院

TEL (0729) 54-5630
藤井寺市御舟町1-3
是枝 哲世

芦屋家畜病院

TEL (0797) 22-3961
芦屋市打出小槌町46
岩崎 孝泰

境川獣医科

TEL (06) 582-0252
大阪市港区市岡元町1-1-1
松村 一弥

東田獣医科

TEL (0726) 82-3297
高槻市名神町3-8
東田 和弘

動物園ニュース

§ アシカの餌付成功する!

3月号でお知らせしましたアシカの餌付が2頭とも成功しました。2月10日から1頭の餌付を開始しましたが、体重の減少が激しく強制的な差し餌を1ヶ月以上続けなければなりませんでしたが、餌付開始後、2ヶ月近く経過した4月



2日からやっと冷凍のアジを食べるようになりました。

もう1頭の方は3月3日から餌付を開始し、約2週間で餌付することができました。

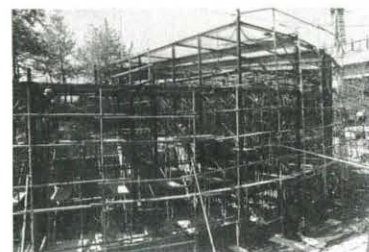
2頭とも自ら餌を食べるようになってからの食欲はすさまじく、1日50匹以上のアジを食べ、体重も日に日に増加しています。まもなく、2頭をアシカ舎で御覧いただけるでしょう。

§ 鳥類の産卵・ふ化

先月号で鳥類の産卵が始まったことをお知らせしましたが、3月25日にセキショクヤケイ、4月11日にハイロコクジャクが人工ふ化したのを皮切りに次々ふ化しています。ハイロコクジャクは昨年栗林公園動物園より来園したもので、当園では初めてのふ化です。成長が楽しみです。その他ベニジュケイ、カンムリウズラ、インドミノキジなども産卵しています。変わったところで、昨年卵を寄付していただき人工ふ化・育すうに成功した3羽のカンムリシギダチョウが早くも産卵を開始しました。いずれもふ卵器に入れていますので、続々ふ化のニュースをお知らせできるでしょう。

自然抱卵の方も、昨年に続き、コブハクチョウが4月10日から5卵を抱卵中です。ジェンツーペンギンも同じく10日に産卵しました。まもなくタンチョウなどのツル類やシユバシコウなども産卵することでしょう。

§ 猛禽舎の建設順調に進む!!



3月号でお知らせしました猛禽舎の工事は順調に進み、最後の仕上の段階に入っています。この「なきごえ」がみなさんのお手元に届く頃には、新居に落ちついたコンドルなどの姿を御覧いただくことができるでしょう。

§ 映画のロケーション行なわれる

「小さな愛のメルヘン」と題する短編映画のロケーションが4月16日から5日間にわたって園内で行なわれました。赤い風船が主役で、少女や動物たちとの対話形式で話が進められ、平和な動物園のすば

らしさを描いた物語で、タンチョウやライオン、キリンなどの動物舎でロケーションが次々行なわれました。

§ “思い出の動物はくせい展”開催される。



春の動物園祭に先立つ4月18日から、思い出の動物はくせい展が北園展示館で開催されました。昭和10年代に活躍したチンパンジーの“リタ”や戦争の犠牲となったライオンやヒョウ、戦前・戦後の動物園を見てきたエミューなどはくせいが、生前の記録写真などととも展示されました。

§ ライオンのメス“ユキ”大往生

当園のライオンの最古参“ユキ”が3月27日に肺膿瘍のため死亡しました。“ユキ”は1962年10月2日に当園で生まれたもので、1965年以来14産31頭の子供を生み、当園のライオンの繁殖に大いに貢献しました。現在6頭いるライオンのうち4頭は彼女の子供、2頭は孫にあたります。1978年以来出産もなく、最近 はめつきり老け込み、この冬を乗り切れるかどうか心配していましたが、とうとう死亡してしまいました。



§ 動物園協会へ寄付を頂きました。

4月28日午前10時、市長公館に於て、去る3月に引続き、第2回目の多額の御寄付を頂きました。

寄付者

大阪府化成工業協同組合
大阪金属工業協同組合

理事長 山本 一 さま

当協会では、御厚志に報いるため、入園する子供たちのための事業基金として、使わせて頂くことにしております。

ほんとうに、有難うございました。

協会事務局

現在の飼育動物数 (1982年3月31日現在)

哺乳類	102種	360点
鳥類	227種	784点
爬虫類	44種	97点
計	373種	1241点

なきごえ 昭和57年 5月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

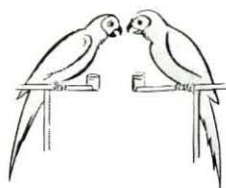
第18巻 第5号(通巻201号)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

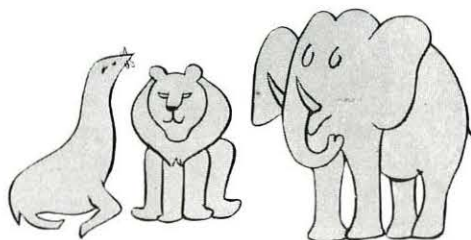
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

橋本 一郎・土井 良彦・樽本 勲・中川 哲男・宮下 実・長瀬健二郎・榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信
 葭谷 文彦・農本 武志・野口 秀高・仲谷 登・高橋 真三・板野 健一・石島 宏胤・柴田 総